もっと知りたい ふるさと ⑦③

郷土史家　中島惣左衛門先生

「我によって立て、我によって進め、左右を見ること勿れ、世の意見興論に盲従する勿れ、型に盲従する勿れ・・・。」という言葉があります。

この言葉は、中島惣左衛門が昭和2年（1927）5月発行「埴南会報」10号に寄稿した「囈語」の中の一部分です（囈語とは『広辞苑』の中に、うわごと・ねごと・たわごととあります）。

中島惣左衛門は、明治17年（1884）更級郡上山田村新山に生まれました。

明治31年組合立上山田高等小学校を卒業し、翌明治32年、15歳で上山田尋常小学校准訓導（准教員）になりました。

その後、長野県師範学校で学び、埴科郡坂城尋常高等小学校の訓導になりました。訓導としては、松本女子師範付属小学校、東筑摩郡塩尻尋常高等小学校に勤め、大正5年（1911）27歳で南佐久郡穂積尋常高等小学校長（現南佐久郡佐久穂町佐久穂小学校）となり、南佐久郡中込尋常高等小学校長、八幡（現千曲市）尋常高等小学校長を歴任しますが、大正13年（1924）3月、40歳で同小学校長を退職、4月、組合立埴南農蚕学校（現県立坂城高等学校）の教諭に転じました。

尋常高等小学校長から農蚕学校教諭へ転じた理由については詳しくはわかりませんが、冒頭の「囈語」から一端を伺うことができます。というのは、明治時代に確立された形式的教育に対して大正デモクラシーを背景に自由主義教育が主張されるようになり、この相容れない考えの中で悩んだ末に転身を決意したのではないかと言われています。

郷土史家中島惣左衛門の功績は、昭和38年（1961）発行の『上山田町史』の編纂です。

中島惣左衛門先生
（出典『上山田の百年』）

古文書にあたり、現地を訪れ、古老の話を聞き、納得するまで調査研究をした3000頁にも及ぶ資料を編纂主任として町史にまとめました。

当時の教育委員長佐竹盛富氏は、郷土愛に満ちたこの町史について序文の中で「私どもの町をどのように打ち立てていくかの課題について示唆してくれる第一資料はこの上山田町史・・・」と述べています。「町を打ち立てる」という今日的な課題に対して、中島惣左衛門はすでに卓見し、その思いを町史にこめていたのです。

残念なことに中島惣左衛門編纂主任は忽焉として昭和36年（1961）12月29日、77歳の生涯を閉じました。

町史の編纂作業は残されたものたちの手により完成しましたが、中島惣左衛門は完成した町史を見ることができませんでした。

中島惣左衛門は教師としての有り様を厳しく自己に向け「人間は終生勉強である」と語ったことを実践した人でもありました。また、郷土愛から生まれた歴史の研究は、徹底した調査研究に基づき起稿し、熱心に町史の編纂に取り組んでいる姿に、地域の方々は大きな感銘を受けたことと思います。

さらに、父を背負ってお参りに行った知識寺の傷みが激しく、取り壊し寸前となったのをくい止めたのも若いころの惣左衛門でした。

研究者として、教師としてのあり様等々を通して、地域の活性化への卓見など人間中島惣左衛門に学ぶことの多さや功績は、枚挙に遑がありません。

故郷の偉大な人物を誇りに思い、また、歴史深い故郷を再発見できたことに感謝しつつ、中島惣左衛門の紹介を終わります。

なお中島惣左衛門が残した膨大な歴史資料は千曲市文化財センターに保管されています。

上山田　山﨑　好一

参考文献等
「大橋幸文講演集」（前坂城町教育長）
坂城町公民館報379号（大橋幸文寄稿）
『上山田の風土』『上山田町史』
『上山田の百年』